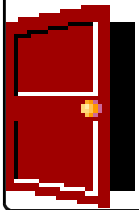


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No 22

桑村小学校令和5年6月1日 文責 江川

大人もお気に入りの1冊を

娘が生まれてから、絵本を手にとることが多くなりました。リビングからテレビを別の部屋に運び、部屋の真ん中に表紙が見える木製の本棚を置きました。本棚は、これまで娘に贈ったものの中で、一番高額な贈り物です。たくさんの絵本に触れ、好きになってもらいたいという思いから。おすわりができるようになってからは、「知恵の和館」で開催される週に2回の読み聞かせやイベントに参加しました。眠くなったり、ぐずったりして、ご機嫌ななめの日もあり、娘は聴いていたのか聴いていないのかよくわかりませんが、親の私の方が、「こんな絵本があったのか。」と感動したり、ボランティアさんたちや司書さんたちのすてきな読み聞かせを楽しませてもらったりしました。

三島市広小路にある絵本作家、えがしらみちこさん（代表作『なきごえたくはいびん』『あめふりさんぽ』『きょうもうれしい』）の絵本屋「えほんやさん」に行った時には、ラッキーなことにえがしらさんがお店にいて、娘の絵本と私の絵本の両方にサインをして頂きました。そのとき購入した絵本『あなたのことがだいすき』（角川書店）は、私の宝物になりました。



家なんて もっと汚くてもよかった
洗濯物も ためちゃえばよかった
家事なんて 全部あとまわしにしたらよかった
もったいないこと しちゃった
だって あんな時間は もう二度とない

気がつけば あなたは 新しい夢に夢中で
自分の足で どんどん 歩いていくんだろう

だから いま
これだけは いっぱい いっぱい 伝えたい

だいすき

「今」大変な子育ても、子どもはどんどん成長し、いつかおわりがきて、我が子は巣立っていくでしょう。大切なことを見失わず、「今」を楽しみながら過ごさないと。この本は、娘が大人になるまで大切に持っていようと思います。

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」（6月1日号）を読んでの感想
()年()